



News Release

2019年6月4日

東京スター銀行 SDGs(持続可能な開発目標)の実現に資する ESG 投融資としての 太陽光発電事業に対するシンジケートローン組成について

株式会社東京スター銀行(東京都港区、代表執行役頭取 CEO 佐藤 誠治)は、このたび、山佐産業株式会社(岡山県新見市、代表取締役 佐野 慎一、関連会社の山佐株式会社と合わせて、以下「山佐グループ」)に対し、エネルギー事業拡大を目的とした総額引受方式によるシンジケートローンを組成し、契約を締結しましたのでお知らせいたします。

山佐グループは、アミューズメント用機械の開発・製造・販売に加え、航空機・船舶リース事業およびエネルギー事業を手掛け、着実な成長を遂げています。1986年に開始した航空機オペレーティングリース事業については国内トップクラスの投資規模を誇っています。2013年からは太陽光発電事業に新規参入し、再生可能エネルギーの開発に積極的に取り組んでいます。

当行は2016年に山佐グループと取引を開始し、以降、山佐グループの太陽光発電事業の拡大意欲に接し、再生可能エネルギー開発支援に資する取引を展望してまいりました。本件は、山佐グループが開発した太陽光発電設備全4基を対象に、開発資金をシンジケートローンとして組成したファイナンス※1です。本事業はSDGs(持続可能な開発目標)※2の実現に寄与する取り組みであることから、これまでの当行の多くの実績で培った再生可能エネルギー分野における高度な専門知識とファイナンススキーム構築ノウハウを駆使し、このたびのシンジケートローン組成に至りました。

当行は、環境に優しい循環型社会構築のため、再生可能エネルギー分野において、開発案件に対する事業会社へのファイナンスをはじめ、他の金融機関と共同でのプロジェクトファイナンスやシンジケートローンの組成などに力を入れており、ESG 投融資としての資金支援という理念にご賛同いただける金融機関と、積極的に連携してまいりたいと考えています。

今後も、多方面から集まった金融プロフェッショナルの豊富な金融ソリューションを活用し、従来の形式にとらわれない貸出姿勢をもって、ファイナンス提供をはじめとした総合的なサポートを推進してまいります。

※1:本件は、代表的な再生可能エネルギー設備である太陽光発電設備を対象にしたファイナンスで、弊行が独自に ESG 投融資と位置付けて取り組んだものです。なお、ファイナンス対象設備全4基の合計 DC 容量は約 8,333kW、山佐グループの試算による予想 Co2 削減量は約 5,571,710.83kg-Co2/年、予想石油削減量は約 2,021,423.65L/年(ドラム缶 10,107 本/年)です。

※2:2001年策定の MDGs(ミレニアム開発目標)の後継として 2015年国連サミットで採択された、持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のための国際目標をいいます。

<本件に関するお問い合わせ先>

株式会社東京スター銀行 広報室 TEL:03-3586-3111(平日 9:00~17:00)

(ご参考)

【山佐産業株式会社の概要】

設立: 1969年3月
代表者: 代表取締役 佐野 慎一
本社: 岡山県新見市高尾 362-1
営業所: 東京都台東区東上野 2-15-12 ニッコービル 1F
主要事業: アミューズメント用機械の販売、航空機リース、太陽光発電
ホームページ: <https://www.yamasa.co.jp/>

【株式会社東京スター銀行の概要】

創業: 2001年6月
代表者: 代表執行役頭取 CEO 佐藤 誠治
本社: 東京都港区赤坂二丁目3番5号
資本金: 260億円
ホームページ: <http://www.tokyostarbank.co.jp/>
